



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 5 月 2 4 日(土)

発行 館長 加 藤 智 一

ウキスキー



2017 年 12 月のある日、私は広島県のほぼ中央、瀬戸内海に面した竹原市を訪れています。その時は、全く意識なく、観光気分で訪ねた訳ですが、なんとも風情のある場所で、それもそのはず「街並み保存地区」に指定されている場所でした。そこで思い出したのですが、ここ竹原は 1983 年の映画『時をかける少女』の舞台となった町です。和子（原田知世）が、朝の通学中に瓦が落ちるのを予知して、「危ない！」と吾朗（尾美としのり）を押して瓦から守るシーンはここで撮影されていたのです。そんな風情のある街並みを鑑賞しながら歩いていると、なんとも趣のある建物に「竹鶴酒造」の看板が。そうです、朝ドラで以前放送された、「マッサン」のモデルとなった竹鶴政孝氏の生家です。

この名前を聞いてピンときた方は、かなりのウキスキー通。「竹鶴政孝」はニッカウキスキーの創業者です。政孝氏は 1923 年、寿屋（現在のサントリー）の創業者・鳥井信治郎氏に招かれ、ウキスキー造りを始め、大阪に建てた山崎蒸留所の初代工場長となりました。その後、理想のウキスキーづくりのため退社。1934 年、気候が本場スコットランドに似ているとされる北海道余市町に「大日本果汁」を設

立しました。それから 18 年後の 1952 年に社名を「ニッカウキスキー」に変更し、現在に至ります。ウキスキーは蒸留した後に寝かせて熟成させる必要があるため、すぐに売ることができません。そこで政孝氏は、ウキスキーが販売できるようになるまでの間、地元特産のリンゴをジュースにして売ることになりました。そのために設立した会社が大日本果汁でした。「大日本果汁」約して「日果」転じて「ニッカ」となったわけです。ところで、「ウキスキー」の「キ」は、なぜこの字が使われているのでしょうか？そこには人知れずこだわりがありました。

初めは「ウキスキーは水が命なので、井戸の「井」の字を使って「ニッカウ井スキー」で登記申請したそうなのですが、当時は漢字とカナを混ぜて登録できず、やむなくカタカナの「キ」を使ったそうなのです。「キ」は「ぬ」のカタカナで、「井」の字に由来するとされていますので、納得です。

「ニッカウキスキー」は、北海道の余市（余市蒸留所）の他に、宮城県の作並温泉近く（宮城峡蒸留所）にもあるのですが、政孝氏がなぜ、建設地として宮城峡を選んだのかと言いますと、ここにも水へのこだわりが。竹鶴氏が宮城峡を訪れた際、まず緑豊かな森を見渡しました。そして、そばを流れる「新川」のうわ水をおもむろにグラスに入れ、ポケットからブラックニッカを出して水割りにして飲んだのだそうです。「いい水だ、地形も申し分ない、ここにしよう」ってなわけで、他の候補地を訪れることなく、即決で宮城峡が北海道余市に続き、第二の蒸溜所建設地に選ばれたそうなのです。

ちなみに、2019 年 2 月、作並の工場を訪れたおり、聞いてみました、「新川（ニイカワ）とニッカは関係あるのか（ニイカワ→ニイカーニッカ）？」と。そしたら全く関係ない。偶然だと言われました。個人的には洒落がきいていて、選定理由としても良いのではと思ったのですが。

